

各 位

2021年1月22日
株式会社リットーミュージック

BiSH のメイン・ソングライター松隈ケンタの DTM 入門書が発売
Amazon 数量限定版は松隈&アユニ・D (BiSH) の直筆サイン入りポストカード付き!



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『松隈ケンタ流 ロック DTM 入門 ～パソコンとギターで始める「ワンコーラス作曲法」』を、2021年3月11日に発売します。

DTM で強烈なロック・ソングを作り続けているクリエイター、松隈ケンタによる解説書が完成！ 機材選びから作曲作業、簡易ミキシングまで、読みやすい語り口と豊富な図版・写真でDTMのノウハウを伝授します。

最初から1曲作り込む正攻法ではなく、本書で紹介するのは「ワンコーラス作曲法」。繰り返し作業することで作曲/DTMスキルが上達していくメソッドです。「細かいことにこだわらずに

とにかく作る！」「リファレンス（見本曲）をマネすべし！」など筆者の勢いあるコメントが痛快な、主にギタリストに向けた新感覚の入門書となっています。

付録 CD-ROM には、筆者が DAW ソフト Studio One Professional で作ったオリジナル曲「セミのチャーハン」ソング・データ、さらに実際に BiSH/BiS/EMPIRE/GANG PARADE の楽曲で使われている貴重なドラム・サンプルも堂々収録！ DTM 初心者であるアユニ・D (BiSH/PEDRO) との対談も読み応えたっぷりです。

さらにさらに！ Amazon.co.jp 予約ページ (<https://www.amazon.co.jp/dp/4845636131>) にはポストカード付き数量限定版を用意。同商品には筆者の松隈ケンタ、そしてアユニ・D の 2 人による直筆サイン (!) 入りポストカードが付きます。貴重な 2 人のツーショット写真と生サインを見ながら、ぜひ DTM のテンションを上げてください。

はじめに

“音楽を作りたい”“音楽を売りたい”“表現したい”という衝動は若者だけでなく、大人になってからも、いつの時代でもあると思います。大昔の人たちは五七五の句を作り、いつの日かピアノやアコースティック・ギターに弾せて歌うようになり、バンドという形になっていきました。その現在のバージョンが、自分で曲を作って発表するという DTM だと思います。ある程度の知識は必要ですが、慣れさえすれば誰でも曲が作れるようになるので、自分の気持ちを表現するために DTM は最高のツールでしょう。

ただし最初にもっとおきたいのが、どうしてもこの本は「簡単にできるよ」とか「すぐにできるよ」というのが多い文句だったりします。ですが、あまりにも「簡単に」をアピールしてきたために、実際にやってみたら難しく感じて挫折してしまった、という人も多々います。だから僕は「簡単にできる」とは言いません。“そこまで難しくもないよ”というのが正しい言い方だと思います。でも、それってギターもピアノも同じで、少し触っただけで弾けるようにはなりませんよ。DTM の世界も実際はそんなに甘いものではないんです。でも、みんなが想像するほど難しい勉強をしなればいけないわけでもありません。やる気さえあれば自然と身につけていくと思います。

本書ではワンコース作曲法を皆さんにお伝えします。作曲というと、多くの人が最初からチャート 1 枚の曲を作ろうとしてしまいがちですが、いきなりそんなクオリティにはたどり着けないでしょう。それよりもまずは作曲の基礎である、ワンコースの歌を作れるようになりましょう、というのが目的です。作曲の終極点を決めておかないといつまでも 1 曲も完成しません。どこまで作ったら他人に聴かせるか、自分の曲として伝えられるのか、ということをご自分で伝えたいと思います。

松隈ケンタ



2

情熱を持って DTM 機材を準備!

DTM はバンド・メンバーがいなくても 1 人でもできるし、楽器が無くなくても音楽は作れると僕は思います。ロックにルールはないのですから自由に音楽を作りたい。プロになるとセールスなどの結果が当然求められますが、最初は自分がやりたい音を出せばいい。他人のやり方に縛られる必要はないんです。

最も重要なのは、“音楽を作りたい!”という情熱。もちろん、ロックをやりたいならギターは弾けた方がいいとは思いますが、とりあえず DTM を始めてから自分の得意な音楽スタイルを探していく人も意外と多いんです。DAW ソフトをいじっているうちに、“自分って実はダンス・ミュージックが向いているんだな”など、新しい発見があるかもしれない。とにかく挑戦してみることが大切です。

でも DTM 機材も絶対に必要。準備としては以下があれば大丈夫です。

- パソコン
- DAW ソフト
- オーディオインターフェース
- マイク
- ヘッドフォン/スピーカー

①パソコンで音楽制作用の②DAW ソフトを動かします。これは演奏の録音/再生、それからソフト・シンセやプラグイン・エフェクトを使って曲を作っていくことができるツールです。そして、それぞれの楽器音を録音してミックス・ダウン=曲をとめる作業もできます。DTM には必ず必要なものです。

③オーディオインターフェースは④マイクやギターをつないでパソコンに録音したり、⑤ヘッドフォン/スピーカーで DAW ソフトのサウンド

DTM を始めるには

を高音質で聴くための装置です。パソコンによっては入力端子やヘッドフォン端子/スピーカーも内蔵されているので、最初のうちは無くても成り立つこともありますが、ちゃんと音楽を作るならオーディオインターフェースはあった方が絶対いいです。



面倒くさからず DAW ソフトの概念を理解するべし

DTM において最も重要な DAW ソフトについて解説します。これは Digital Audio Workstation の略で、録音をしたり、エディットをしたり、音色加工でパソコン内で楽曲を組み立てられる便利なソフトです。

8

9

DAWソフトざっくり解説

例 PRESONE Studio One

トラック

- オーディオトラック(録音)
 - MIDIトラック(MIDI)
 - マスタートラック
 - バストラックなど
- DAWソフトの種類によって名称は多少異なりますが、上記のようなものが基本場所です。それぞれ音量などを個別に調節が可能です。一部に音などが同時に送られるトラックがミックスされて一つのファイルとなったものです。

インスペクター

選択しているトラックの情報が表示されます。そのトラックの音量や効果プラグインなどを確認するのにも便利です。



トランスポート

再生、停止、早送り、巻き直し、録音などを行います。

波形(オーディオ)

録音した(コーディングした)もの、ギターやボーカルなど、個別にトラックを作って録音しておくことで、後でそれぞれの音量を変えたりミュート(無音化)などができます。また自分で録音しなくても、既存のオーディオ・サンプル・ファイルを読み付けたりすることも可能です。

MIDI

それ自体は音色を持たず、ソフト音源を動かすためのデータです。そこには音高や発音の強さ/長さなどが含まれていますが、初心者はとって「MIDIって何?」という、分りにくい部分かもしれません。そんなにも難しくなくて大丈夫です。

メインアウト/マスターアウト

各トラックがミキサーでまとめられて、このメインアウトから2トラック(左右)の音として出てきます。

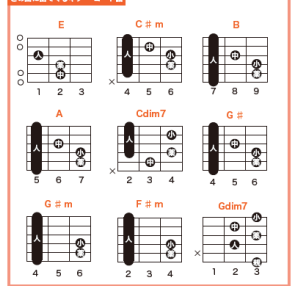
ミキサー

各トラックの音量を調節します。また、PAN(PAN)は、スピーカー/ヘッドフォンで聴いたときにそのトラックの音が左右どちらの位置で鳴るかをコントロールします。音量でミキサーを操作するのは多いので、PANで設定します。また、M(ミュート/無音化)、S(Vノミ)のトラックだけ鳴らすボタンで個別に音を確認できます。

00501 ワンコーラス作曲例「セミのチャーハン」

僕はやっぱりコードが重要だと思っていて、コードに対して良いメロディが生まれます。できれば理論書などを読んで基本的なコード進行の知識を身に付けてほしいですが、何度も書くように初心者の方はまず高音曲からコピーするのが有効。マネから入るのは本に大事で、ギターでコピーをしまくっていくとコードの動きが何となく分かってきて、「フレットの位置から考えると次はこのコードに行くのかな?」という感覚が染み込んできます。PANクワックの良さはそこで、音楽理論を知らなくても体で覚えればとあえざるようになります。

この曲に出てくるギターコード



●EQは自分でやってみるしか正解はない

実際にどのようにEQをかけていくかというと、これはもう「リファレンスをマネする」に尽きます。例えばリファレンスのキックを聴きながら、自分のキックとどう違うのかをEQをいじりながら探していきます。全く同じ音になるわけではないので、大体でいいです。やり過ぎないように! 自分の感覚で何度もこの作業を繰り返していけば、身に染み込んでくると思います。しいかもしませんが、ここは自分でやってみるしか正解はありません。

リファレンスに似てきたら、次はさらなるトリートメントをします。Studio One Professionalに付属するProEQなど、最近のEQプラグインはアナライザーがリアルタイムに動いて、実際の音の周波数分布がグラフィカルに分かります。それを見ながら、「自分のキックは150Hzがへこんでいるんだな」とか「300Hzが盛り上がりすぎているな」と分析しつつ、へこんでいる帯域は裏らないものとして、パッパリとカットしてしまうのが僕のやり方です。

なぜこうするのかというと、あなたが聴いた音色で既にへこんでいる帯域は「要らない部分」ということです。実際にEQでカットして音がそんなに変わらなければカットして正解。ミックスではいるんばートの音が選ざってきて、何十トラックも積み重なったときに、単体では聴こえなかった空気感のようなものが増幅されて、楽曲を邪魔してしまうことがあります。少しレベルの高い話になりましたが、そうするとスッキリしたミックスになると思います。

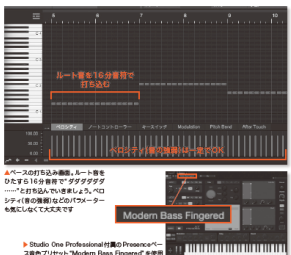


本書は
“何でも簡単にできます”
とは言いません!
鍛錬あるのみ

「セミのチャーハン」分析

ベース編

ベースは打ち込みで、ひたすらルート音を楽しんでいます。音源はPresenseで、Studio One Professionalプリセットの「Modern Bass Fingering」です。これも極まずに良さそうな感じのものを選べばOK。こんなことを言うとはベースの方々に怒られそうですが、作曲の段階ではベースの音色は何でも良いです。クリエイターあるあるで、「もうちょっと太い音色がいいかな……」とか悩み出したらキリがありません。だったら、いつも「ベースはこの音源のこのプリセット」と割り切って決めておいた方が楽です。



00502 「セミのチャーハン」ミックスダウン分析

○キックのEQ

「セミのチャーハン」で作業が行っているEQ処理の段階です。調整された周波数帯域は赤で表示して、ワイドレンジのEQで広い帯域を削っています。これは聴こえなくなるので、それ以外の帯域が強調されます。



○スネア、ハイハットのEQ
スネアやハイハットはEQ処理が必須で、かつ最も重要。エフェクトをかける目的ではなく、音色をリファレンスに近づけることが目的です。



DTM 初心者 アユニ・DISH / PEDRO / 松隈ケンタ

Studio One と初心者セットでベースを録っている(アユニ・D)

- アユニさんがDTMを始めようと思ったきっかけから教えてくださいませんか？
- アユニさん 普段はBISHで活動していますが、PEDROというバンド形態のソロプロジェクトを始めるにあたって、松隈さんとSCRAMBLESが楽曲を作ってくれて、でも、やっぱりバンドとしてやるからには、自分たちで作れたらもっと面白いんじゃないかと思ってたのでした。
- Q 最初は難しい方を見えなさいいけないので、自分でベースをDAWに録ってもらうことから始めました。ドラムとキーボードのトラックを録しては？
- アユニさん ない
- Q 自分でベースを録りつつ、並行編集で好きな部分をつないでやり、レコーディングして、本当だったらドラムとベースは一緒にレコーディングしたいじゃないですか、でも今は？とばかり自分自身で、好きなだけ録音していかれるって見えます。そうやって録音の仕方を覚えれば、作曲もできるよになるだろうなと思っていて、なので、PEDROの音源にはアユニが自分で録音したベースが入っています。
- アユニさん、MIDIソフトを使っているのですか？
- アユニさん Studio Oneです。松隈さんとSCRAMBLESの方に教えてもらって、マイクとかが持っている初心者セットで、あと、ドラムの打ち込みを1音1音やるのが難しいときは、APPLE GarageBandも使います。最初からドラム・フレーズが入っているの。
- Q それって、GarageBandのドラム・フレーズを書き出して、Studio Oneに入れるわけ？
- アユニさん そうです。
- Q おお、素敵くさいことやってんな(笑)、Studio OneにもMIDIループがいっぱい入っているからそれ使えば？
- アユニさん 知らなかったです。探してみます。
- 今のやり取りを見てみると、結構松隈さんにDTMの使い方を教わってるやっ



■書誌情報

書名：松隈ケンタ流 ロック DTM 入門 ～パソコンとギターで始める 「ワンコーラス作曲法」

著者：松隈ケンタ

定価：本体 2,000 円 + 税

発売：2021 年 3 月 11 日

発行：リットーミュージック

商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/product/detail/3120321002/>

CONTENTS

intro DTMを始めるには何を準備したらいいのでしょうか？

Section A ワンコーラス作曲法のススメ

Section B ワンコーラス曲作り実践編！

Section C ワンコーラス作曲例「セミのチャーハン」

Section C' 「セミのチャーハン」 ミックス・ダウン分析
特別対談 アユニ・D (BiSH/PEDRO) ×松隈ケンタ
outro DTM 上達のためのアドバイス

PROFILE

松隈 ケンタ (まつくま けんた)

福岡県出身の音楽プロデューサー、2005 年 avex trax よりデビュー。J-POP に本格的なロックを取り入れることに定評があり、BiS デビュー後は、アイドル・ミュージックの根底を覆すエモーションなロック・ナンバーを量産。近年の“アイドルがロックを歌う”ムーブメントに大きな影響を与えたパイオニアでもある。

【株式会社リットーミュージック】 <https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 Rittor Base」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やエンタメ情報サイト『耳マン』、Tシャツのオンデマンド販売サイト『TOD』等の Web サービスも人気です。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証 1 部 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」「学術・理工学」「旅・鉄道」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当 吉田（勇）、原見
Tel: 03-6837-4704 / E-mail: pr@rittor-music.co.jp